

プロジェクトメンバーの職務パフォーマンスに影響を及ぼす要因の研究 —IT 専門職のモチベーション向上プロセスの探索的検討—

齋藤識樹 (さいとう さとき)
三好きよみ (みよし きよみ)
東京都立産業技術大学院大学

1. はじめに

この度は、優秀萌芽研究賞に選出いただき、ありがとうございます。大変光栄に存じます。年次大会では貴重なご意見やコメントをいただくことができました。このような機会を提供してくださった経営情報学会 2023 年度年次大会運営委員の皆様、インタビュー調査に協力いただいた皆様、発表への助言をしてくださった PBL (Project Based Learning の略、詳細後述) チームのメンバー、ならびに今回の発表に対して貴重なアドバイスやフィードバックをくださった全ての皆様に、研究チームを代表して、この場を借りて深く御礼申し上げます。

2. 本研究の概要

近年、ビジネス環境の大きな変化に対応するため、企業等では DX (デジタルトランスフォーメーション) が推進され、経営における IT の活用は不可欠となっています。このような環境変化に対応するため、企業等はプロジェクトチームを設置して活動しています。プロジェクト活動ではプロジェクトの成功を目指して、計画された品質・コスト・納期を実現することが最優先となり、プロジェクトメンバー個々に対する対応は優先度を下げざるを得ない状況です。しかしながらプロジェクト活動の成功には、それぞれのプロジェクトメンバーが職務パフォーマンスを発揮することが不可欠であり、一人ひとりの仕事に対する高いモチベーションが求められています。

この研究は、DX や IT に関連するプロジェクトの成功のために、プロジェクトメンバーの職務パフォーマンス発揮を支援するための手法を提案することを目的としています。この目的を達成するために、プロジェクト活動において、どのような経験がプロジェクトメンバーのモチベーションに影響を及

ぼすかについて、調査・分析を行っています。

3. 現在の研究状況

今回の発表では、現状の問題や関連研究を整理し、プロジェクト活動に取り組んだことのある IT 専門職の方々へのインタビュー調査の質的分析による探索的検討の結果を報告しました。分析の結果、自ら学ぶ意欲のプロセスモデル (櫻井, 2009) [1] の一部が調査対象者のモチベーション向上と一致すること、職務不満足をもたらすとされる衛生要因 (Herzberg, 1987) [2] が調査対象者のモチベーション低下と一致することが示されました。現在は、年次大会においていただいたフィードバックを踏まえ、引続きインタビュー調査を行っています。

4. チームでの研究のやりがい

筆者が所属する PBL チームは、IT、製造業、金融業などに所属する、20 代から 50 代と幅広い世代のメンバーで構成されています (図 1)。2 チームで活動しており、もう一方のチームは、テレワーク環境でのチーム内のコンフリクトについての研究を行っています。相互にレビューし合い、切磋琢磨しながら、研究を進めています。

このような環境では、研究を進めていく上で参考となる、さまざまな視点や価値観に触れることができます。例えば、これまでの職務経験の違いにより、同じ言葉であってもメンバー間で認識の相違が生じ、認識のすり合わせに時間を要することもあります。このような日々のチームでの研究活動の中でモチベーションの維持・向上を図ろうとすることは今回の研究とつながっています。それらを体験しながら研究を進められることに、非常にやりがいを感じています。



図1 PBLチームのメンバー（筆者は前列中央右）

5. おわりに

社会人大学院生として、働きながら研究を進めることは時間や体力面の制約から容易なことではありません。しかしながら、仕事と並行して研究を進めるからこそ得られる気づきや学びも多くあります。また、研究の成果を所属する企業で直ぐに実践できることも、社会人大学院生の強みであると考えています。社会人大学院生という立場を最大限活用しつつ、今回の受賞を励みに、今後もモチベーション高く研究活動に取り組んで参ります。そして、見識を深めるとともに、企業や社会に貢献できるような成果を出せるよう、尽力して参ります。今後も引き続きご指導を賜りますようお願いいたします。

6. 指導教員からのコメント（三好きよみ）

東京都立産業技術大学院大学は、ビジネスモデルの創造、IT、デザイン & エンジニアリング分野など産業技術分野の高度専門職業人を育成する専門職大学院です。学生の多くは社会人で、「PBL（Project

Based Learning）型教育」[3] が特徴です。通常の研究型大学院で必須とされる修士論文の代わりに、2年次の1年間がPBLに費やされます。実務レベルのプロジェクトを1年間かけて実施することにより、高度専門職人材に必須の知識・スキル・ノウハウを獲得できるようにしています。最終的な成果物も重要ですが、実際の業務の内容に近いプロジェクトを遂行させていくプロセスの中で、実践的で真に役立つスキルやノウハウを修得していただきたいと考えています。

参考文献

- [1] 櫻井茂男「自ら学ぶ意欲の心理学」有斐閣、2009年。
- [2] Herzberg, F., "One More Time: How Do You Motivate Employees?", *Harvard Business Review*, Vol. 65, No. 5, 1987, pp. 109-120.
- [3] 東京都立産業技術大学院大学「教育の特色」, <https://aiit.ac.jp/education/>（最終閲覧：2023年7月10日）

略歴

斎藤識樹（さいとう さとぎ）

2013年3月埼玉大学経済学部社会環境設計学科卒業。
2013年4月金融系業界団体に入社。2022年4月より、東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科産業技術専攻情報アーキテクチャコース在学中。

三好きよみ（みよし きよみ）

2018年3月筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士後期課程修了。博士（システムズ・マネジメント）。現在、東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科教授。